

令和5年度 自己評価・学校関係者評価

令和6年3月27日
静岡なかはら幼稚園

1 幼稚園の教育目標

いきいきとやる気を持って遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1、明るく健康な子に（あいさつ、おはよう・ありがとうなど）
（体をいっぱい使ってあそぼう）
- 2、自立心があり周りの人のことをよく理解できる子に
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子に（自然との関わり、園外に多く出る）
- 4、言葉をよく理解して上手に使える子に（お話をしっかり聞く、話す）
- 5、積極的に表現できる子に（自分の思いをことばや絵に）

3 評価項目の達成及び取組状況

※関係者評価の欄に記入してください。

よい 努力したい
A - B - C - D 4段階

評価項目	結果	理由	関係者評価	意見
① 保育の計画性	B	経験のある職員が率先して月案、週案、日案を立て、行事担当者への投げかけをしていくことで、例年に比べ早い時期での立案や準備ができたように思う。しかし、学年によって差があったり、実際には間際になってしまったりすることもあった。保育は、計画通りに進まないことも考慮しながら、計画を立てていく必要があると思われる。また、フォローする体制を整えていきたいと思う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の能力やその時の状況等で、計画通りに進むことの方が難しいと思う。 ・ベテランの先生を中心にしっかりとした準備の下、行事を実施したと思う。
② 保育のあり方子どもへの対応	B	担任は、一人一人の子どもをよく見て、一人一人に合わせたかかわりをするよう努力してくれていたと思う。ただし、どうしても偏った見方になってしまうことがある。大勢で共有し園全体のこととして捉えることで、様々な子どもの育ちや育ってきた環境、個性等について、多くの視点から観察をすることができるので、今後さらに職員同士のコミュニケーションを深め、より子どもを知ることができるようにするとともに、保育の幅を広げていけるようにしたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の職員等で子どもの様子を共有し、複数の視点から観察することは素晴らしいと思う。 ・多くの人の目で見ること、子どもたちの可能性が広がると思う。 ・子どもの個性を大事にしているが、全体をまとめるにあたり難しい場面もあると思う。

				<ul style="list-style-type: none"> 全体を俯瞰して見られる先生がいると良い。
③ 教師としての資質能力、適正など	B	特に経験の浅い職員には、積極的に研修へ参加し様々なことを学び、保育者としての資質はもちろんのこと、人間性を高めて欲しいと願う。本年度も、経験のある職員への業務負担が多かったように感じる。今後、職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考えながら、発信することを忘れずに、協力し合えるよう、コミュニケーションを深めていきたい。また、今まで通り報告・連絡・相談・確認を密にしていきたいと思う。また、危険予知や危機管理に対する意識をきちんと持てるようにしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの深化を期待する。 ベテラン職員に負担がかかることを軽減するための差配が必要。 年齢、経験、環境、性格等、個人差があるが、ただ子どもが好きだけでは務まらない仕事だと思う。
④ 保護者への対応	B	職員が積極的に声をかけることで、担任以外の職員にも話をしてくださる保護者が増え、担任には伝えにくいことを話してくださる方も多かった。今後も、園の考えを理解していただくために、多くの保護者の方へ声をかけ話す機会を増やしたいと思う。登降園時間によっては、なかなかコミュニケーションがとれない保護者もいたと思うが、よりよい方向に進んでいけるよう努力をしていきたい。また、園の方針は守りつつ、子どものことを第一に考えながら、保護者からのご意見も参考に保育を進めていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な保護者がいる中、子どもファーストの対応をしていると思う。 多くの保護者とコミュニケーションを図る努力を継続してほしい。 保護者とのより良い関係性を築いてほしい。 自分の子どもが大事なものは、いつの時代も変わらない。幼稚園からの発信はもちろん、保護者を巻き込んで理解してもらうことが必要だと思う。
⑤ 地域の自然や地域との関わり	B	聴覚特別支援学校幼稚部との交流保育、中学生の体験学習の受け入れ、公園清掃等、地域の方とのかかわりが持てるよう取り組んできた。昨年度に引き続き、大里中学校3年生の家庭科の授業を受け入れた。 乳児組は、園外への散歩の機会が多くあったが、幼児組は散歩に出掛けたり畑に行ったりすることがほとんどなく、見直していきたい点である。	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も子どもたちに様々な経験をさせてほしい。 散歩に行くことはリスクが多いが学べることも多いと思う。
⑥ 研修と研究	A	幼稚園・保育園問わず、様々な研修会に参加させていただけるため、広い分野で学ぶことができたと思う。研修で得た知識や情報を再確認し、共有したり提供したりすることができたので、せっかく得た知識や情報を今後さらに、保育に生かしていけるようにしたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修は人として先生としての成長に資することと思う。 豊富な知識を学び視野を広めてほしい。

<p>⑦ 外部アンケート</p>	<p>A</p>	<p>未就園児対象の催し物では、会の内容によって参加者の数にばらつきがあり、乳幼児を抱える保護者の思いが顕著だった。参加して下さった方々からは「楽しかった」「前回楽しかったのでまた来ました」「家でできないことができて良かった」等の感想をいただいた。</p> <p>運動会や発表会等では、「青組の園児のように、我が子も成長してほしい」「見ていて楽しく嬉しい時間を過ごせた」「我が子の今後の成長が楽しみ」「子どもが、とっても楽しんでいた」「全学年を見ることで、子どもの成長をより感じられる」等の感想をいただいた。これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人差があるのは当然だが、ひとつのものを作り上げることは、子どもにとっても先生にとっても意義のあることだと感じた。 ・行事は子どもの成長を見る良い機会。先生方の準備や努力は本当に大変だと思うが今後も継続してほしい。 ・保護者の声を見ると、先生方の真摯な取り組みが保護者にも理解されていることがわかる。今後も保護者と職員の良い関係構築に努めてほしい。
------------------	----------	--	--

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

各学年とも重点課題のねらいを基に保育計画をたてて保育を進めてきた。様々なことの影響や時代の流れとともに難しいことも多く、ねらいの達成という点では難しいものもあるように思う。劇遊びやごっこ遊びでは、表現する楽しさを感じてくれたようで、年長児から良い影響を受け、どの学年も楽しむことができたようだ。身の周りの物事や他人に無関心ではない子を育てていきたいと思う。しかし、元気に挨拶をすること、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することはまだまだ足りていない。今後、挨拶はもちろん、遊びの中において自分で考えて試してみることを大切にしながら、身の回りの事物に関心を持ち、言葉で表現することを楽しめる子を育てていきたい。季節の自然現象に出会ったり、園外保育で貴重な経験をしたりし、様々な経験をしてきたが、ここ数年課題と感じている、歩くことに慣れていない子が多いということを念頭においての保育の実現が今年度も難しかった。職員が共通意識を持つとともに、保育教諭の経験も増やしていきたい。今年度初めて実施した姉妹園との交流では、子どもの育ちはもちろんのこと、保育教諭にとっても非常に良い勉強になった。姉妹園に限らず、他園との交流も積極的に行っていきたい。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	子ども達に様々な経験をさせたいと願うあまり、幼児は特に行事に追われてしまうこともある。このことは毎年頭を悩ませながらも、いまだ改革ができていない。今の子ども達にとって、大切なことは何かを今一度考え、保育の効率性も考えていきたい。また、様々な対応を必要とする子どもたちに、伝えなければいけないこと、伝えたいこと等を全職員で共通理解し、柔軟な対応をしていきたい。そのためには、保育教諭の資質の向上も視野に入れていかなければいけないと感じる。
散歩の充実	園バスだけでなく、徒歩での園外保育も積極的に取り入れていきたいと思いつつも、ほぼ実施することができなかつた。遠くに出掛けるだけでなく、園の近くで散歩を存分に楽しみたいと思う。時代の流れとともに、“気軽に”というわけにはいかないことは確かだが、散歩を日常のこととして取り入れられるよう工夫したい。
満3歳児保育の充実	1号認定児（幼稚園）の3年保育という概念を捨て、2歳児保育及び満3歳児（3歳の誕生日を迎えた翌日から入園できる）保育を充実させていかなければいけないとつくづく感じる。保育室の使い方の見直し等、現場の職員を含めた検討・話し合いが必要と思われる。
評価委員からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員が多い中で様々な行事を進めることは難しいと思うが、全体で協力して実行できていると思われる。 ・コロナ禍から難しくなっているが、園と親との関わり合いがもう少し増えてくると尚良いと思う。 ・保育は思い通りにならないことが多く、その中で色々と考えながら努力している先生方に頭が下がる思い。 ・園児の散歩の際に、地域の人たちが見守りとして散歩に付き添う等、できることがあったら協力したい。 ・行事のほんの一部を見学したが、個を生かしながら全体を仕上げていくことは大変だと思う。完成されたものを観ると、どれだけががんばったかが伝わってくる。未来を担う子どもたちが健やかに成長することを願うのみ。 ・保育の安全が話題となる昨今、園の運営には苦労があると思う。そんな中、先生方は子ども一人ひとりに愛情を持ち、細やかな対応をしていると思う。 ・今後も、今と変わらぬ熱意と愛情を持って子どもたちに接し、安心安全な教育・保育の提供を期待する。